

(7)

● 合併処理浄化槽の働き

合併処理浄化槽を設置することで、きれいな水を身近な環境に戻して、三隅の豊かな自然を守ることができます。環境の保全にとってはよいことづくめですが、そのためには合併処理浄化槽を設置した後の維持管理がきちんとされなければなりません。

● 抜群の性能

合併処理浄化槽の性能は、汚れの指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）除去率が90%以上、放流水のBODは20 mg/ℓ以下となっています。

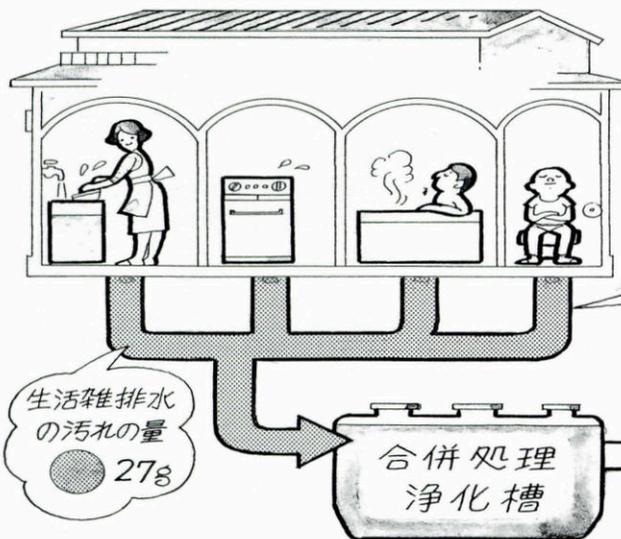
これは公共下水道と同レベルの性能です。生活排水の中の汚濁物質（BOD量）は、1人1日当たり40gといわれています。合併処理浄化槽で処理すれば、この汚れがわずか4g以下に減ります。

BOD量が多い台所や洗濯、風呂などの生活雑排水が処理されない、単独処理浄化槽やくみ取りトイレの家庭と比較すると、その処理効果の差は非常に大きくなっています。

● 汚れがきれいになる理由

汚水の中の汚物を浄化する主役は、浄化槽の中のたくさんの種類のバクテリアや原生動物などの微生物です。ところが、微生物は案外気難し屋で、活発に働かせるためには、微生物が働きやすい環境を整えてやらなければなりません。

合併処理浄化槽の中では、そこに棲む微生物によって汚物が分解、浄化され、そのあと浄化された水だけが放流され、汚泥は、年に1回、専門の清掃業者によって引き出す必要があります。



合併処理浄化槽や変則合併処理装置を設置した場合は、単独処理浄化槽を設置した場合に比べ、川などに放流される汚れの量が8分の1になります。

トイレからの汚れの量
● 13g

汚れの量
● 4g

$5g + 27g$
= ● 32g
の
汚れ

●数値は1人が1日出す水質汚濁物質の量をBODで表わしたものです。



合併処理浄化槽は